

令和 6 年度第 2 回高松市地域学校協働活動研修会報告書

■目的：地域学校協働活動を推進するためのキーパーソンとなる地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の役割や、必要とされる資質などについて理解を深めるとともに、市内で実践されている具体的な活動事例を学び、各地域での活動に活かすことを目的とする。

■開催日時：令和 6 年 1 1 月 1 4 日（木） 1 3 時 3 0 分～1 6 時 2 5 分

■会場：高松市役所 1 3 F 大会議室

■参加人数：5 6 名

■受講対象者：高松市地域学校協働活動推進員、学校関係者、
学校運営協議会委員、コーディネーター候補者、地域住民 等

■研修内容

1. 講義：文部科学省総合教育政策局 CS マイスター 青井 静 氏
2. モデル校における事例発表
 - （1）鬼無校区 ：コーディネーター 田所 智志 氏
 - （2）古高松南校区：コーディネーター 藤澤 茜 氏
 - （3）川東校区 ：コーディネーター 石川 恵美 氏
 - （4）亀阜校区 ：亀阜おやじの会代表 天野 雄一朗 氏
3. 質疑応答
4. 講評・事例紹介
5. 事務連絡

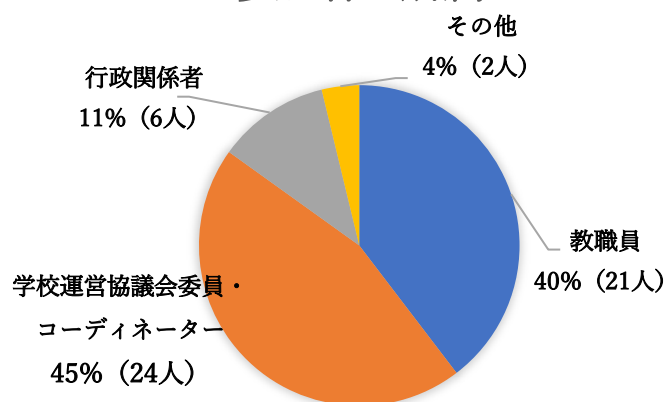
<主な感想等>

- ・学校は人事異動があるが、新しく赴任した際、言われて一番つらいのは「前の先生は～だった。」という言葉。学校と地域で気持ちの交流ができることが大切だと思っている。
- ・小学校は昔から地域の大切な核として存在してきたが、近年、様々な理由により、地域コミュニティが崩壊し、自治会の未加入世帯が増加したり、子ども会が壊滅状態になったりしてきた。だからこそ地域活動の復活こそがコミュニティの結束を強める鍵になると思う。その中心になるのがコーディネーターになるのか。
- ・今後も、好事例や情報交換など、協働活動を進めるヒントになる研修がよい。
- ・具体的な実践が聞けたので本校でも取組の参考にしたい。
- ・制度の話が出たが、どこまでを教員がするのか、地域には何を任せるのか、マニュアルもなく困っていることも多い。黎明期にどういう準備をしていけばいいのかもっと知りたい。
- ・具体的な「学校と地域のコラボ」「サポーター」「保険」「ルール作り」などの話があり、今後の実践へのイメージが浮かんた。
- ・モデル校は小学校のみで中学校は複数小学校区があるため人材発掘などが難しい場合もあると思う。市としての人材登録制度ができないのかと思った。
- ・今、自分がやっていることはこれでいいのかと思うこともあったが、モデル校の実践と類似している活動もあり日頃悩んでいたことが少し解消された。
- ・コーディネーターの方を孤独にしない。大きな役割を担ってくださるコーディネーターの方をどのようにサポーターしていけばいいのか考えさせられた。
- ・活動の具体例だけでなく、質疑応答の中で気になっていることや心配なことについても取り上げられたので参考になった。やはりコーディネーターの存在が大きいと感じた。
- ・中学校の実践事例や、失敗談も聞きたい。
- ・コーディネーターの存在の大きさを実感した。人材の発掘がとても重要。学校と地域の役割を明確にすることが大切。学校の敷居を下げる意義（良さ）が心に残った。
- ・各地区の想いや事例が聞けて良かった。まずは、地域の特色を活かしてやりたいことを見つけ、お手伝いの人を集めたい。
- ・地域でいくつもの団体の構成員として活動しており、学校運営協議会委員としても名前が入っているだけというような認識だったが、今回の研修を通して、コーディネーターは無理かもしれないけれど、何か学校へ関わりたいと思った。
- ・学校と地域の両面から活動の充実を図らなければならないと思う。
- ・学校行事なら全員が参加するが、地域行事等では参加しない子もいる。参加しない子の中にも興味をもっている子もいるので、たくさんの子を誘いたい。
- ・学校視点ではなく、コーディネーターの視点で具体的な実践事例が聞けて良かった。
- ・学校の状況を理解してもらえよう、サポーターの方にも学校要覧を配ろうと思う。

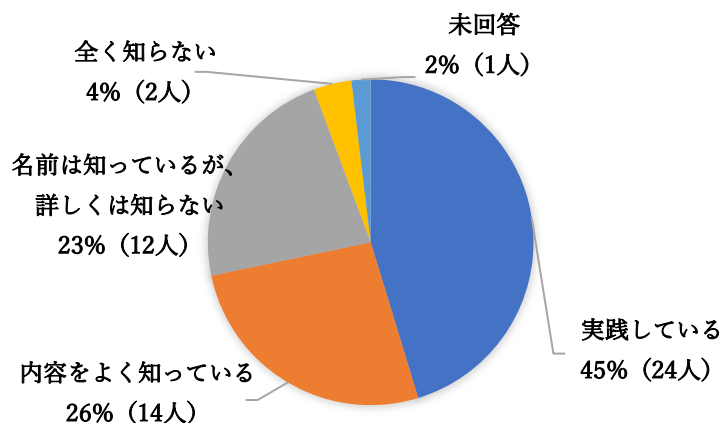
■ アンケート結果（回答数 53名（回答率94.6%））

<集計結果>

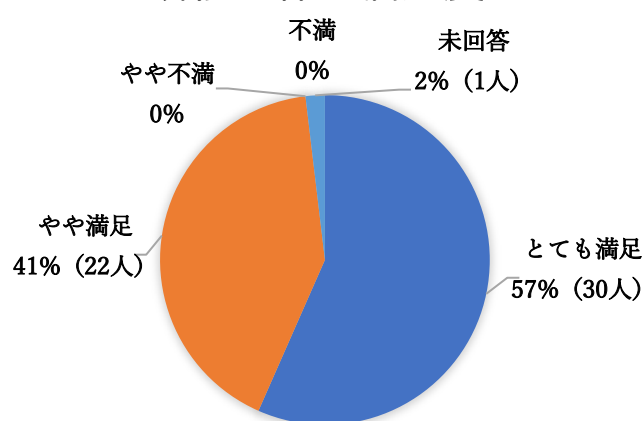
参加者の所属



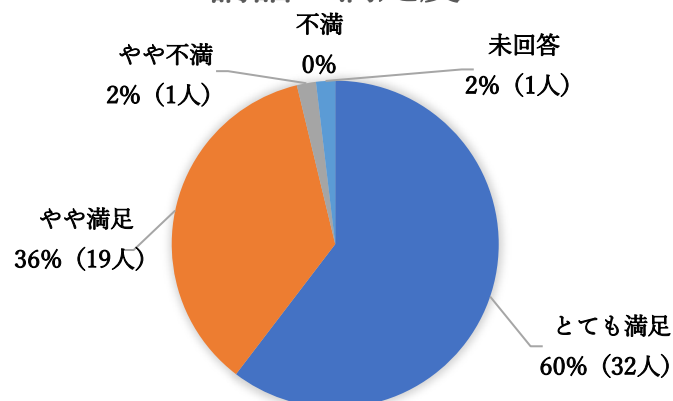
研修前の理解度



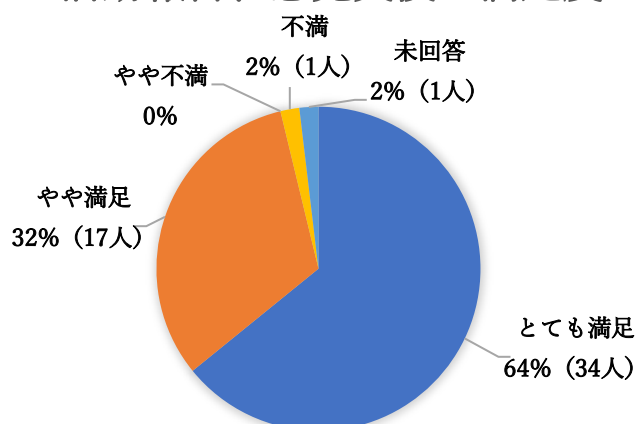
研修全体の満足度



講話の満足度



活動報告、意見交換の満足度



理解度の深まり

